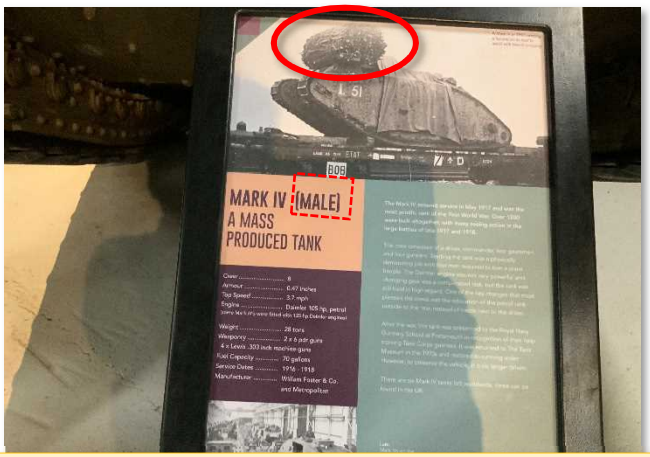
戦車博物館紹介②（館内写真など）；第１次大戦中のマーク型戦車などの紹介

下図は私がショップで購入したパンフの裏表紙の館内マップです。



1 階の最初のコーナーは第 1 次大戦当時の戦車、馬などが展示されています。写真は 1917 年から戦闘に参加した MARK　IVです。戦車の上に俵のようなのを乗せていますが、説明文を読むと塹壕を渡るのに細い木などを運んでいる所だと書いてあります。1200 台が生産されたそうです。乗員は全部で 8 名。ドライバー1 人、指揮官 1 人、ギアを動かす人（gearsmen）2 人、銃（大砲）を撃つ人（gunners）4 人だったと書いてあります。ギアを動かすのが複雑だったとも書いてあります。大砲の口径は約 6cm。

マーク型戦車はⅠ～Ⅴ型まである。上記説明に male と書いてあるが、戦闘用が male で male を守るための戦車が female とのこと（大砲の数など武装が違う）。

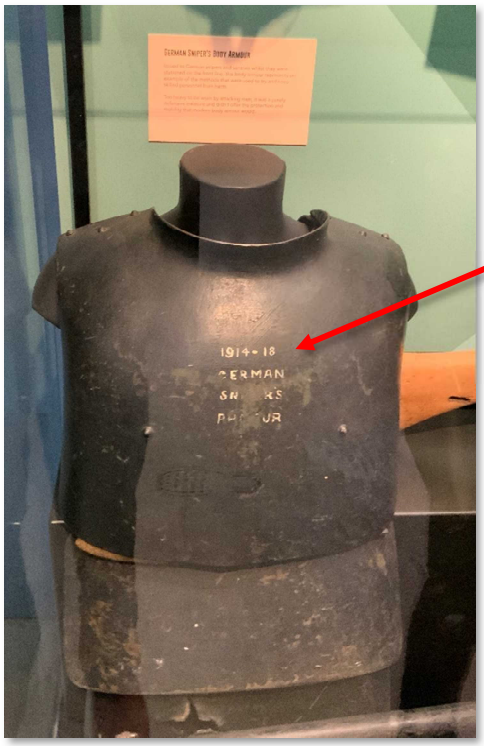
確か映画インディー・ジョーンズ最後の聖戦にも登場したと思います。
ハリソン・フォードが活躍したシーン、覚えてますか？

マークIVの内部モデルです。ここでは４名しか乗ってませんね。

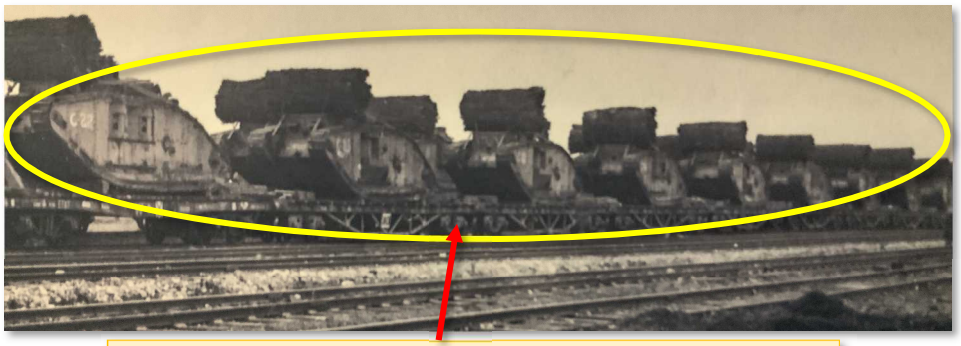
ここから戦車に乗り込みます。

塹壕の上を通っていく戦車の様子です。

注意！として子供は総てのトンネルに（大人は）監督しておく（supervised）ようにと、書いてあります。

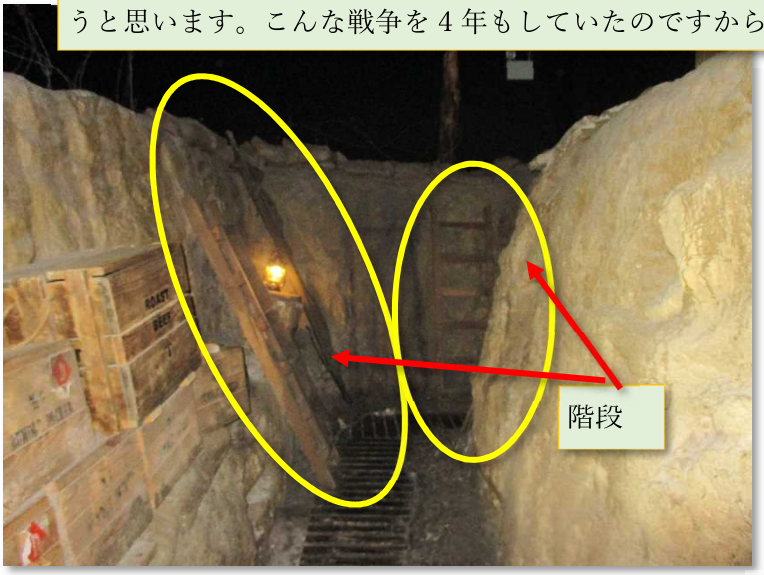


第１次大戦中に最前線にいたドイツ軍スナイパー（狙撃手）が使っていた鉄の鎧（armour）。重くて一般兵士は使用しなかったと記載してあります。また、現在の防弾チョッキのような性能は無かったとも記載してあります。



列車で多数のマーク型戦車が戦場に運ばれていく写真。

第１次大戦中に掘られた実物大の塹壕の中も通ることが出来る。実際にはジメジメと湿気もあって大変だったろうと思います。こんな戦争を４年もしていたのですからね。



このような塹壕戦が長期化してきたことで、それを打開する意味で戦車が開発されたわけです。大戦２年後に初めてイギリスの戦車が投入された後はドイツ軍も戦車を開発して戦車投入後の２年間、合計４年間もの長期にわたり戦闘が繰り広げられました。
戦死者 1,600 万人、戦傷者 2,000 万人もの人類の歴史上最も多くの被害者を出したわけです。

左写真はマークⅡ型ですが、その後改良されたマークⅣ型でも時速約 6km しか出なかったようです。マークⅣ型の全長は 8m、横幅が約 4m で戦車の高さは約 2.4m で戦車重量が約 28t だったと記載してありました。ガソリン満タンはで走れる航続距離は 56km との事。

世界最初の戦車としてイギリスが開発した Mk（マーク）Ⅰは新兵器の開発がドイツ軍に知られないように Water Carrier（水運搬車）と呼ばれたそうです。ところが、この名称はトイレ（WC）を連想させるため、後に Tank(水槽)と呼ばれるようになり、これが戦車を Tank（タンク）と呼ぶ事になった言われらしいです（田宮模型のマークⅣのプラモデル製作の説明書に書いてありました）。このプラモデルを買ってしまいました！最初の戦車のマークⅠは 1916 年９月 15 日のソンム会戦で初めて投入されました。1914 年７月 28 日が第１次大戦開始日ですので、その約２年後に戦車が初めて投入された、という事になります。